

日時：2024年7月23日(火) 17:30-18:00

場所：Zoom開催

進行：ストーマ用品セーフティーネット連絡会 当番幹事 (株)ホリスター

議事：ストーマ用品セーフティーネット連絡会 副当番幹事 コロプラスト(株)

参加者：JSSCR-幸田圭史、板橋道朗、靱山こずえ、山本由利子

JWOCM-紺家千津子、松原康美

JOA-木下静男、川村正司

OAS-諏訪昌宏(進行)、秋葉晃子、Vivian Fei、内藤寿真子(議事) 合計 12名

## 1. 活動報告

### 1) JSSCRより

板橋：

- 今回の保険改定で「ストーマ合併症加算」が新規に保険収載された。一定の研修を終えた看護師が合併症のケアをすることで保険点数が取れることが認められ、研修については、地方のJSSCRの講習会が該当する。
- 算定ができる施設基準に「関連学会から示されている指針に基づき」とあるが、現在、合併症の加算を取るにあたっての明確な指針がなく、JSSCR、JWOCM、泌尿器科学会、日本大腸肛門病学会と連携して、その指針をWGで作成しているところである。もう少しで完成予定で、今後明確にできる。

靱山：

- 災害対策委員会の都道府県代表者の連絡網を更新した
- 災害対策については後方支援の基盤はだいぶ出来てきており、地域での災害時の対応についてこれから更に進めていく。
- 厚労省側と今後面談を申し入れをする際に、市町村、行政とスムーズな災害時の対応ができるよう、地域にも話を戻して、地域ごとに対策が進められる形をとっていきたい。

### 2) JWOCMより

紺家：

- 5月25日、26日に学術集会を開催、紺家先生より学会としてどのような災害支援をしたかを報告した。前回の会議でもお話したが、装具等を手早く調整してもらったことで、ストーマに関しては、その後もお困りがないとお話をいただいている。
- JWOCM学会としてストーマケアガイドブックを発刊し、「ストーマ合併症加算」にはナースがケアで関わるという内容を含めている。
- 6月30日に開催された石川県支部の総会で話した災害に関わるストーマの問題点について。装具的には問題なかったが、例えば視力障害をもつオストメイトがいらして、その方はご家族がいらしてサポートできたが、このようなオストメイトで加えて何か障害等をお持ちの方については、現在、福祉避難所が考えられる。ただ、そこに避難している多くは認知症の方とか介護を要する方が対象になってきて、その場では結局、そのような障害のあるオストメイトは、かかりつけの病院へいくしかないというお話になった。今後、プラスアルファの障害をお持ちのオストメイトの方への対応を考えていくべきだと感じた。

松原：

- JWOCMで災害のことをトピックにしてもらい、参加者が石川県の能登半島地震の災害支援に関心を持って受講されていた印象である。

### 3) JOAより

木下：

- 6月8日、9日に静岡県のコンベンションアーツセンターグランシップで第36回JOA全国大会(静岡大会)が開催された。
  - 参加者：オストメイト約150人、他の方を含め合計で約200名

- 行政から静岡県の森副知事、静岡市の大長副市長にご臨席いただき、JSSCRの板橋理事長より祝電をいただき、JWOCCMの松原渉外委員長に出席いただき、学会からはお花もいただき、お礼申し上げます。
- 進藤先生には顧問医会の代表としてご参加いただきお話しいただいた。
- また地元の看護師の皆さんにもご協力いただき、メーカー各社からは展示協賛をいただいた。
- 市民公開講座として静岡がんセンターの上坂総長による講演、アトラクションとして大道芸を実施した。
- 支部長会議ではグループ分けし、それぞれの実情等を話し合っていたかく、そもそも今回の静岡大会においては「変革しようオストミーJapan in 静岡 2024」と銘打ちまして、全国の意思統一を図りたく議論をした。
- 最終的に、「新規会員10パーセント増を目指す」と「全自治体に対して給付増額要望書を提出しよう」のスローガンを発表、全員で頑張ろうと唱和した。
- 2025年6月14日、15日に札幌市の教育文化会館で第37回JOA全国大会(北海道大会)を開催する予定である。内容の詳細はこれから詰めていくところ。  
身体障がい者手帳の発行数が22万人のところ、会員は5000人台で3%を切っている現状で、協会の運営や財源面でも厳しい状態なので、1つ1つ改善していくための企画となる。
- 災害については、7月9日からの島根県出雲市の大雨による災害救助法の適用があったが、島根県支部長に連絡を取って確認したところ、海岸線沿いの道路が寸断したが、実際オストメイトの被害など困ったことは無しとの報告を得ている。

#### 4) OASより

##### 諏訪：

- ビーブラウンさんが、今年末でOASから退会される。それを受け「災害の手引き」を来年に再度印刷し、配布する予定である。  
JSSCR、JWOCCMとJOAそれぞれ三団体の皆様へのお願い：  
必要な部数を諏訪氏へ10月末までにご連絡いただく。
- 7月9日からの島根県出雲市の大雨による災害について、現地の販売店さん数社に連絡を取って確認したところ、現時点では災害救助法に適用が必要な方はいない。ただ広域の販売店で該当する方がいることも考慮し、念のため1か月半の中で各メーカーに連絡があった場合は対応するとしている。
- 厚労省の被災地対応の部署への訪問の件について
  - ご担当のヨネヤ氏（障がい者支援機器係）へメールでアポイントのお願いはしているが、今のところ返事がないことから、再度ご連絡し、動きがあれば皆さんへご連絡する。
  - 靱山さんからのご提案  
厚労省との面談にあたり、どのような話をするかは、事前に話しあって決めておいた方が良いと考え、それを加味して日程の調整や議題とりまとめをお願いしたい。  
議題の1つとして備蓄があり、現在の3パターン [①市町村で買い取って備蓄する ②オストメイトからの預かり備蓄 ③販売店と協定を締結し災害時に使った分を後で行政が支払う。]のうち、どれを厚労省に推進してもらうかは、当協議会として事前に決めておくのが良いと思う。
    - ◇ 靱山さんから：③が行政としてスムーズではないか。
    - ◇ 木下会長から：自身の千葉県では①で対応してもらっているとのことのお話し。②では、うまくいっていない話も聞くし、あくまで預けた個人のための備蓄になってしまう。そのためベースは避難所におく備蓄品として一定数、自治体に購入してもらうのが良いのではと考える。JOAとしては給付基準額の増額だけでなく、備蓄も含む地域間格差の解消を国に訴求していきたい。
  - 厚労省訪問前に各団体より代表に出していただき、別途打ち合わせを設定することで合意。  
現在のOASからのサポートはあくまで共助であり、今後の継続性を考えても、基本的に行政にサポートしてもらうことを訴求していく必要性あり。

次回開催：第58回日本ストーマ連絡協議会

2024年11月26日(火) 17時30分～18時30分予定